

ハローフレンド通信別冊 Vol.20

「世界を知ろう World Knowledge」

「世界を知ろう World Knowledge」では、海外の国や文化をみなさんにご紹介します。

ラグビーW杯出場国紹介

「300余の火山島と珊瑚礁からなる島国 **フィジー**」

- 国名：フィジー共和国 Republic of Fiji
- 首都：スバ
- 公用語：英語（公用語）の他、フィジー語、ヒンディー語
- 国歌：フィジーに幸あれ
- 国花：タンギモウジア
- 面積：1万8,270平方キロメートル（四国とほぼ同じ大きさ）
- 人口：約89.2万人（2015年）
- 人種民族：フィジー系（57%）、インド系（38%）、その他（5%）
- 宗教：フィジー系はほぼ100%キリスト教、インド系はヒンズー教、イスラム教。全人口に占める割合はキリスト教52.9%、ヒンズー教38.2%、イスラム教7.8%。
- 日本との時差：日本より4時間進んでいます。
- 国際電話番号：+679



【国旗】



【国章】



タンギモウジア

幻の名花ともいわれ、フィジーで3番目に大きなタベウニ島の山奥のタンギモウジア湖のほとりにしか咲かないとされています。

フィジーの観光スポット



←ナンディタウン

お土産や食材を売る露店が並んでいます。レストランやスーパーマーケットなどの商業施設もある一角です。



←スリ ジヴァ スブラマニア寺院

ナンディ郊外にあるヒンズー教の寺院。フィジーはインド系の人が多く、信者がお祈りをしています。



←フィジー博物館

フィジーの歴史に関する展示があります。



←ロロ料理

フィジーの代表的な伝統料理。土に穴を掘り、焼いた石を置きます。その上にヤシの葉にくるんだ食材を乗

せ、さらに上からヤシの葉や土をかけて2~3時間蒸し焼きにします。中に入れるのはラム・ビーフ・ポークなどの肉類やタロイモ・キャッサバなどのイモ類、それに魚など。ヤシの葉のかわりにバナナの葉などが使われることもあります。



フィジーといえば美しい海。白い砂浜の光るビーチはハネムーンにも人気です。

フィジーのグルメ

フィジー料理は典型的な家庭料理で、街で実際にフィジー料理を出すレストランはあまりありません。インド系が多いことからインド料理のレベルも高く、親しまれています。



ココンダー

お刺身にした白身魚をココナッツミルクとレモンで和えたマリネ。



ロロ料理→

ロロとはココナッツミルクを煮たものの総称です。フィジーを代表する家庭料理の一つで、鶏、魚、海老などの具を野菜と共にココナッツミルクで煮込んだクリームシチューの様なものです。ココナッツミルクと塩だけのシンプルな味つけで、ココナッツミルクのコク（油分）と甘味がほどよく加わり、サッパリと軽い後口。日本人の口にも良く合う定番おかずです。



日本では昔からお風呂を大事にし、毎日家族全員がお風呂に浸かる習慣があります。一日の汚れを落とし疲れをとるというイメージですが、欧米では起床後にシャワーを浴びるほうが一般的です。これは人に会う前の身だしなみという意識の方が強いからです。また、年間を通して湿度の高い東南アジアの国では1日2回シャワーを浴びるのが一般的です。

日本に来た外国人にとっては、「お風呂のお湯を替えずに同じお湯を使って入ること」「朝ではなくて、夜にお風呂に入ること」「熱い湯船に長く浸かること」が不思議なこととして感じるようです。国、風土、歴史によって価値観が異なります。今回は文化習慣の違いからトラブルが起きやすいお風呂事情についてご紹介します。



アメリカの浴室にもバスタブはありますが、日本とは違いシャワーだけで済ませる場合がほとんどです。シャワーヘッドも、壁に固定された物が多いのも特徴です。また、朝出かける前にシャワーを浴びる人が多く、出かける前のエチケットとして入浴する習慣のようです。アメリカで家族とお風呂に入るときは少しだけ注意が必要です。幼児保護の考え方が日本とは大きく異なり、親子でも、パパと娘・ママと息子といった異性の場合、一緒にお風呂に入るとは法律で禁止されています。日本では親子のスキンシップの場でもあるお風呂ですが、文化の違いを理解しておかないと大変なことになってしまいます。



フランス人は一般的にお風呂嫌いと言われています。その理由のひとつに、上下水道のインフラが整備されていない古い建物が多く、水道代がとても高いことがあげられます。そのためバスタブにお湯をためること自体、贅沢なこととみられます。また、フランスの水は硬水のため、毎日髪や体をしっかり洗うと、かなり乾燥して肌や髪がパサパサになってしまうようです。こういった事情から、シャンプーは一日ないし二日おき、基本的には朝にシャワーでさっと流すのみという人が多いようです。

フランスは「香水」の文化が発展しています。もしかすると、お風呂事情の違いが、香水の文化にも大きく影響しているのかもしれない。



タイの一般的な家庭の浴室にはバスタブがありません。シャワーがついているか、かわりに水を溜めた大きい水槽があることもあります。タイは年間を通して常に暑い国であるため、一日に何度も「水浴び」としてシャワーを浴びる習慣があります。そのため、日本のようにバスタブにお湯を溜めて浸かるといった習慣はありません。



インドネシア人は一般的に綺麗好きです。入浴（水浴び）は1日2回、朝と夕方にします。一年を通して暑い気候で汗をかきやすいからですが、清潔であることを良い行いとするイスラームの教えにも関係しているようです。



ホームステイ体験記－受け入れ後の家族の変化

- ・色々な国のゲストの話を聞いて、娘たちは国籍に対して偏見がなくなり、相手を理解しようという心がより一層深くなりました。(Aファミリー)
- ・子供たちは小さい頃から自宅に留学生がいることが普通になっているようで、毎回文化や習慣の違うゲストが来ますが、特に驚くこともなくごく自然に打ち解けています。今後社会に出て様々な人と接していくことを考えたとき、日本人と外国人ということだけでなく、様々な違いに戸惑うことなく人と接することが出来る、というのはとても大切なことだと感じています。(Tファミリー)

袋井市では、様々な国際交流イベントを実施しています。

★イベント情報について「ハローフレンド通信」をご覧ください！

袋井市役所総務部国際課国際交流係

TEL 0538-44-3138 FAX 0538-43-2132

MAIL international@city.fukuroi.shizuoka.jp